
連載になるかもしれない、ネタ。?

海野 真珠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

連載になるかもしれない、ネタ。？

【Nコード】

N7939U

【作者名】

海野 真珠

【あらすじ】

#twnovellのネタに、加筆修正。第四弾。
タイトル通り。いつか、連載になるかもしれない、ネタ。
前3作と、多分きつと関係はある、ハズ。

(前書き)

第四弾。

もう、何も言ひまい・・・。

月明かりの差し込むだけの薄暗い部屋。
広いその部屋の中央に置かれる、豪華なベッド。

「陛下がお越しになるのでは？」

一人で眠るには広すぎるそのベッドに。
今宵は一人、招き入れた。

「心配か？」

薄い夜着のリボンを解きながら言う男に、クスリと笑う。

「唯一、貴女様に許可無く触れることのできる方ですから」

まるで、それが不快だと言わぬばかりの口調の男。

わたくしから離れた視線のその先を追えば、そこは、隣室に繋が
る扉。

今は閉ざされたその扉の先は、わたくしが『夫』と呼ぶ男の部屋。
もちろん鍵など存在しない扉だが、そこが開かれることなど、あ
りほしない。

「本日、陛下は本宮へはお戻りになられないでしょう」

いつまでも視線を戻さない男の頬に触れ、少し、力を込める。
一瞬で戻された視線に、淡く微笑んだ。

少しだけ開けられた窓から、清涼な風が入り込み、天蓋をふわりと揺らした。

「……本日は、新しく迎えられた側室様の所でしたか……」

体のラインにそって触れる男の手によって、肌蹴られた夜着が滑り落ちる。

「そう……あの子が嫌悪した、あの姫のトコロ……」

先日迎えた、新しい側室。

取るに足らない小国の出だが、それでも、一国の王女。

歓迎の宴の折に見たその王女の瞳には、ありありと野心が見て取れた。

陛下の隣。

一段高い王座に座るわたくしに向けられたその瞳に、愛しい我が子の顔色が変わった。

それに気付いたのは、わたくしと、この男だけ。

「翌日、陛下に直談判されておいででした」

首筋に下りてきた、男の唇。

そこから発せられた、少しくぐもった声に、クスクスと笑う。

「困った子……あの姫の野心など、叶うことなどありはしない

の……」

既に王太子の決まった国に、何も持たぬ、ただの側室として嫁してきた王女。

そんな王女の持つ野心など、考えるまでもない。

「殿下は、母上のお気持ちを考えろ、と陛下に仰っておいででした」
スルスルと体中を這う唇と手の、緩い刺激に身をよじる。

「此度の側室も、許可したのはわたくし……」

ながきにわたり、子のいなかった陛下。

数多の側室の、誰の腹にも宿らなかった子が、王妃となった女の腹には宿った。

待ち望んだ子。

生まれたのは、王子。

王妃腹の第一子は、何の縛りもなく王太子となる。

「殿下は、母君の身を案じておいででした……」

それに、色めき立った、後宮の女たち。

子を望み、陛下に縋る、毒花たち。

「子を宿したその時から、危険は承知……」

男子を生み、王太子に据えるという野心を持つ毒花は。
それが、叶わぬ野心と知らない毒花たちは。
あの手この手で、陛下を誘う。

これ以上、王妃に子を生ませぬために。
あわよくば、自分の腹に、子を宿すために。
陛下を、後宮に引き留める。

「わたしが、お守りいたします」

取られた右手の指先に、降ってくる口づけ。
何度目かわからないほどに受けた、忠誠の証。
今、ここで受けるそれに、忍び笑う。

指先で男の唇をなぞれば、その口内に迎え入れられた。
熱い舌が、指先に絡む。

その、直接的な刺激に、知らず、口角が上がる。

「今宵の毒花も、陛下を放しはしないでしよう。己の野心のために、
何としてでも子を宿したいはず……」

出来るはずのない子だと、知っているのは、いかほどか。
後宮から出られぬ側室には、絶対に子は宿らぬと、承知している
のは、幾人か。

これからも、子は、わたくしの腹にだけ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7939u/>

連載になるかもしれない、ネタ。？

2011年7月18日12時35分発行